

「知と行動の巨人」

本学の創立者

井上円了

を知り、
情熱に触発される。



明治初期、自ら世界に学び、 民衆教育を実践した“知と行動の巨人”、井上円了

134年前の明治20(1887)年。井上円了は大学を卒業して2年、奔走の末、わずか29歳の若さで私立哲学館を創りました。これが東洋大学の前身であり、ここから現代の私たちに繋がるストーリーが始まったのです。円了はお寺に生まれ、明治維新を経験するさなか、10歳から漢学を、16歳から洋学を学び、23歳のとき創立間もない東京大学で哲学を専攻します。そこで、洋の東西を問わず真理は哲学にありと確信。これが本学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」となるのです。円了は哲学館での教育活動と並行して、哲学の普及活動にも精力的に取り組みました。例えば海外渡航がままならない明治の時代に3度も世界を巡り、体得した知見を日本全国に広めた社会教育の祖でもあります。迷信を払拭させるために妖怪を研究した「妖怪博士」としても有名です。円了があなたの年齢だったときに何を考え、行動したのか。そんな目で見ると井上円了は急に身近な存在になるはずです。この機会にぜひ、井上円了を知っていただきたいと思ひます。

TOPIC 東洋大学では円了の思想と情熱を、現代～未来に大切に継承していこうと、2021年、学内の円了研究の組織を統合し、「井上円了哲学センター」を新設。集積した資料の保存・研究と社会への発信を拡充しています。白山キャンパスの「井上円了記念博物館」もこの一環として施設の拡張が計画されています。

白山キャンパス内にある博物館でより身近に井上円了を感じてみましょう

誌上“博物館ツアー”

「井上円了記念博物館」白山キャンパス5号館1階

開館時間：月曜日～金曜日 9時30分～16時45分
土曜日 9時30分～12時45分

休館日：日曜、祝日、年末年始、その他本学の定める休業日
入館料：無料

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により入館を制限しています。また、近く施設の工事が計画されています。今後、ご紹介内容と展示が異なってくる場合があります。あらかじめご了承ください。



学芸員の北田建二さん、飯村百恵さん(本学卒業生/写真右)に今回のガイドをお願いしました。



展示の見所 ①

「井上円了記念博物館」の特徴は、偉人としてではなく、少年期から亡くなるまで、創立者の等身大の姿が展示されていることです。その展示物の背景にある「物語」に注目してもらえると、井上円了を身近に感じることができるはず。 「妖怪博士」ならではの資料や「旅する哲学者」としての展示など、じっくり見れば見るほど井上円了の「人となり」が浮かび上がってきます。ユニークで人間的魅力にあふれた井上円了をたっぷり感じてください。



展示の見所 ②

展示を楽しむため、解説文がガイドになります。例えば写真のノート。一見、古い和綴本ですが、実は青年期ならではの焦りや喜びなどをうたった学生時代の井上円了の自作漢詩集なのです。解説文を読むと、有名な漢詩のパロディとわかって笑えたり。若い感性は今の学生の皆さんと変わりません。



展示の見所 ③

金屏風ひとつとってみてもその背景には物語があります。実はこの屏風の書は、円了が世界旅行の最中に詠んだ漢詩を自身の筆で1国1扇に表したものです。欧州、北欧、アメリカなどの印象を、現代なら撮影やスケッチをする代わりに、詩をつくり、「書」にしたためたのです。こうした作品は哲学館への寄付のお礼として支援者に贈られました。明治・大正のクラウドファンディングといえそうです。



展示の見所 ⑥

哲学という「難解そうな学問」をいかにわかりやすく世の中に伝えていくか。円了は、囲碁・将棋・チェスなどをもとに、なんとゲームを考案しました。それが「哲学飛将碁」。手引き書とともに販売されたそうです。さすが、円了は考えることがユニークです。



展示の見所 ④

知恵の仏様、文殊菩薩像。実はこの仏像は、かの勝海舟から寄贈されたものです。勝海舟は円了の熱意と人柄を認め、哲学館を力強く支えたひとり。物心両面で支えとなるだけでなく、円了に「経営者の視点」を授けた恩人でもあります。



展示の見所 ⑤

円了が学生時代から研究してきた「妖怪」に関する哲学館での講義を筆録した『妖怪学講義』も展示されています。「妖怪」を科学的に解明した本書は高く評価され、明治天皇にも奉呈されました。現在の本学における人気講義「妖怪学」の源泉がここにあります。

「書籍」でより深く知る

東洋大学附属図書館

各キャンパスの「図書館」には、井上円了に関わる書籍や資料等がたくさん所蔵されています。哲学者として妖怪学の祖として、井上円了研究はその切り口も書籍もバラエティに富んでいます。自分の興味に合う本をぜひ探してみてください。

デジタルブック

本学公式Webサイト内の〈井上円了哲学センター〉ページでは『井上円了の教育理念』、『東洋大学史ブックレット』、『井上円了の生涯』をデジタルブックで閲覧できます。

東洋大学について > 創立者・井上円了について > 井上円了哲学センター > 関連書籍

さらに、井上円了の主要な著作(単行本や講義録)を現代の読者のために、文章を現代表記に直して読みやすくした『井上円了選集』全25巻も閲覧できます。



井上円了 その哲学・思想 竹村牧男著 春秋社

本学前学長の竹村先生による井上円了の思想と行動を統一的に明らかにした著作。円了の教育理念が現在の東洋大学にどう継承されているのかも考察されています。



日本人はなぜ妖怪を畏れるのか～井上円了の「妖怪学講義」～ 三浦節夫著 新人物往來社

古き迷信を社会から取り除こうとした井上円了と、民間伝承を記録し残そうとした柳田国男。同時代の妖怪研究を対比させながら、日本人の妖怪に対する心性を明らかにします。



井上円了「哲学する心」の軌跡とこれから 講談社編 講談社

哲学、教育、宗教など、幅広い分野に影響を与え、日本の精神面における近代化に取り組んだ井上円了の業績と人となりを紹介する「井上円了入門書」の決定版。

学祖祭

井上円了は1919(大正8)年中国・大連での講演中に倒れ、61歳でその生涯を閉じました。103回忌の命日にあたる2021年6月6日、蓮華寺(東京都中野区)において学祖祭を挙。例年100人前後が参列しますが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、規模を縮小し、関係者のみで執り行いました。



哲学堂祭

毎年11月の第1土曜日に、哲学の普及を願った井上円了の遺言にもとづいて哲学堂公園(東京都中野区)で行われる講演会です。この講演会は一般公開されており、哲学堂に祭られる孔子、釈迦、ソクラテス、カントという、哲学の「四聖」を順番に取り上げます。



動画で掘り下げる



【東洋大学創立者】旅する哲学者 井上円了 井上円了の足跡を辿る動画。本学学生として、ぜひ一度は見ておきたいものです。



「井上円了と哲学堂公園～現代を生き抜く哲学のすすめ～」 円了の生い立ちから哲学世界を視覚的に表現した哲学堂公園構成までを解説。